

(別記様式第3号)

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)乙第1762号	氏名	岩永 哲
論文審査担当者		主査教授	篠原一之 印
		副査教授	丹羽正美 印
		副査教授	永田 泉 印
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、外耳道・中耳真珠腫に対して行われ始めている内科的治療法、5-FU 軟膏の局所投与が副作用として、内耳機能への障害の有無を調べようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>(1)5-FU 軟膏の濃度を臨床で使用する濃度に合わせていること、(2)内耳機能を調べる上で必要な蝸牛内直流電位、走査電子顕微鏡を用いた蝸牛の内・外有毛細胞残存率、光学顕微鏡を用いた蝸牛の血管条障害の有無を検討していること、(3)5-FU 軟膏投与も外耳道のみ投与、中耳腔・外耳道投与を比較していること、から研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、5-FU 軟膏を中耳腔・外耳道に投与した時のみ、蝸牛内直流電位の統計学的に有意な低下を認め、特に、低下を認められた4例(全10例)全てに正円窓への軟膏の付着を見出している。また、5-FU 軟膏投与を中耳腔・外耳道投与によって、内・外有毛細胞や血管条に障害が認められないことから蝸牛内直流電位の低下を形態学的障害によるものでなく、機能的障害によるものと推測している。これらの結果から、5-FU 軟膏で外耳道・中耳真珠腫の治療を行う場合、鼓膜穿孔、蝸牛半規管瘻孔の有無に注意を払うこと、正円窓膜周囲に塗布すべきでないことを明らかにし、今後の外耳道・中耳真珠腫の内科的治療法への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は5-FU 軟膏による外耳道・中耳真珠腫の治療の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。